



地域とつながる教育の充実を目指して ～キッズウイークの運用を通して～

羽島郡二町教育委員会



1 はじめに

羽島郡二町教育委員会は「様々ななかかわりの中で学び、社会の一員として貢献できる社会人の育成」を教育の基本理念として挙げている。これまで、二学期制の導入、立志塾の開催、コミュニティスクール化を進めてきており、学校や地域が共に子どもを育てる主体となるよう基盤づくりを進めてきた。

今後、今以上に親子の絆を深めたり、子どもと地域とのつながりを強めたりするためには、大人と子どもが触れ合う機会を充実させる必要があると考えている。

そこで、これまでの2学期制において、前後期間に設定してきた5日間の秋季休業日を活用し、令和元年度は土曜日曜祝日を挟み10連休となるキッズウイークを設定し、町の行事や体験活動へ参加しやすくなるよう環境整備に努めた。

2 目的

子どもが自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り開く力を培うことを目指し、学校・家庭・地域がひとつとなった教育力を高める。

3 取組

大人と子どもが触れ合いながら充実した時間を過ごすことができるよう、学校休業日を分散するとともに、体験的学習活動など休業日に多様な活動の機会を整備する。

(1) 児童生徒・保護者を含む町民への周知

教育委員会は、平成30年度の総括を活かし、令和元年度は4月のはじめに保護者向けにキッズウイークを含めた年間の長期休暇の文書を配布した。また、各町の商工会に協力を依頼し、企業や事業所にポスターやチラシを配り、キッズウイークに対するこれまで以上の理解が得られるよう努めた。

(2) 子どもの居場所づくり

保護者が会社等を休めない子どもに対応するため、放課後児童クラブの朝から開設することや公民館等において子ども教室等を開催することを依頼した。その結果、後者については下表のとおり多くの講座や教室が開催され、親子で楽しむ場を設定することができた。

(3) 活動一覧

笠松町キッズウイーク中の講座等

日	講座名	参加人数
5日 土	こどもわくわく広場	
	キッズクッキング	6
	楽しい木工	18
	ちりめん細工	9
	ペーパークラフト	9
	楽しいベタンク	6
	将棋の部屋	12
	かわいい粘土細工	7
	チャレンジ太極拳	7
	下羽栗プログラミング	11
等はじめ	2	
8日 火	地層と地震のひみつを見つけよう!	12
9日 水	笠松競馬場探検ツアー	15
10日 木	自分だけのオリジナルストラップ	23
11日 金	親子わくわく植物ウォッチング探検隊	中止(9)
13日 日	ミニかさ横丁	497
14日 月	プログラミング体験学習	10
14日 月	みんなの音楽会～Let's enjoy music～	約250

両町で約1200名の児童生徒が参加した。

岐南町キッズウイーク中講座等

日	講座名	参加人数
8日 火	紙バックでびっくり箱	3
	ポーセラーツでマグカップ	11
	化石と貝でかべかざり	3
9日 水	三ちゃんであそび隊	30
	ギャラクシーボトル作り	13
	子どもお菓子教室	10
	楽しくオカリナを吹こう	2
	三ちゃんであそび隊	70
10日 木	山川じゃぶ!じゃぶ!自然体験	17
	紙バックでびっくり箱	3
	楽器や歌を楽しもう	4
	楽しいプログラミング教室	9
11日 金	楽しくオカリナを吹こう	3
	紙の花でアクセサリー	4
14日 月	イラスト教室	10
	町小学生交流ドッジボール大会	約90
両町共通		
6日 日	町民運動会	49・55
12日 土	健康ウォーク	中止(44)

キッズウイークを迎えるにあたり、子どもたちは10日間の計画を立案して臨んだ。

振り返りでは、家族旅行や親子で参加した講座に関することが綴られ、家族と楽しい思い出や宝物ができた喜びが感じられた。

(4) 活動の具体

①笠松町ミニかさ横丁

かさまつ子どものまち「ミニかさ横丁」は、子どもたちが計画してつくりあげる「子どものためのまち」で、異年齢の子どもたちの触れ合いの場である。自主的な遊びの場の提供や子どもたちの表現の場として毎年企画し実施している。小学校5年生から高校3年生までの約50人が子ども実行委員として月2回の会議を重ね、「子どものための子どものまち」を考案し、1日に来場する約500人の子どもたちがこのまちで過ごし働けるよう準備する。参加する子どもたちは、ハローワークで仕事を見付け、一定時間働くと独自の通貨の給料が得られ、会場内のイベント等で使い活動を楽しんだ。



参加者は、羽島郡内だけでなく、岐阜市や羽島市、愛知県からもあり、疑似体験ではあるが、働き、収入を得て、消費する日常の生活を楽しみながら学ぶことができた。

②岐南町ドッジボール大会

学校で慣れ親しんでいるドッジボールを通して知り合い、仲間や保護者と触れ合い絆づくりをすることをねらいとした。

学校という垣根を越えた交流を通して、中学へ進級した際に学校生活へ早期に慣れ親しむ事も目的のひとつであったが、他校の児童同士が笑顔で会話する姿を観ることができた。



9月に行った事前の集会では、参加者全員が楽しめるルールづくりを行った。当日の試合中には声を掛け合う姿や、各々の仕事では互いに協力し助け合う姿が見られた。

4 活動を終えて

各小学校6年生の児童と保護者（抽出1学級）、各中学校2年生の生徒と保護者（抽出1学級）に事後アンケートを実施した。主なものは以下の通りであった。

アンケート内容	児童生徒		保護者	
	肯定的	否定的	肯定的	否定的
キッズウイーク中は、家族とふれあう時間は増えたか	72%	28%	65%	35%
期間中、地域の方とふれあう行事に参加したか	72%	28%	74%	26%
キッズウイーク中は有意義であったか	85%	15%	77%	23%
キッズウイークのチラシや案内を活用して、計画的に有給休暇はとれたか			56%	44%

- ・キッズウイークが始まって2年目であることや、4月当初に案内を出したことで、ポスターやチラシで広く周知を図ったことが、家族でふれあう時間を計画的に設ける機会となった。
- ・参加の内訳は、小中学生ともに町民運動会が一番多く、次いで部活動、スポーツ少年団、地域行事（ミニかさ横丁、ドッジボール大会等）であった。公民館講座は親子同伴のものも多くあり、それぞれの立場で、子どもたちの活動の場を作って頂いた。
- ・子どもだけでなく、保護者の理解も得られたことが伺える。
- ・平日5日間の内、有給休暇取得0日の保護者が44%存在している現実がある。

5 終わりに

キッズウイークが2年目であったこと、事前のお知らせを充実させたことで、保護者、地域から一定の理解を得ることができたと考えます。今後、更に企業や事業所の理解を得るためにも、両町だけでなく、周辺の市町へも商工会を通じて働きかけていけるとよい。

また、公民館講座や催し物について、各町の社会教育主事が事前の宣伝を工夫することや、希望の少ないものに対して内容の見直しを図るとともに、子どもだけで参加できる講座や中高学年向けの講座を増やしていけるとよい。

今後、コロナ禍であることも踏まえ、講座等の持ち方や在り方についても再考する必要がある。